



山が動いた!

今年の夏は雨が多く、各地で災害のニュースを目の当たりにし、9月に入って爽やかな秋空を満喫しつつ当山の恒例の秋季彼岸会法要も穏やかな天候のもと、無魔成満する事が出来ましたと、ひと息つく間もなく、我々にとって親しみ深い政治家で初代マドンナの土井たか子さんの訃報が流れると同時に、あの深い信仰に仰がれる御嶽山が大きく動いた。



東方山安養寺

法西天皇陛下と皇親貴族の檀越の寺

第34号 平成26年 10月1日



時に、降りかかる災難はいつ興つても不思議で無いことを痛感させられました。 禱りの総本山ですら大きな災難に遭遇するのです。 我々の生活のなかで災害時に備えることは言うまでもありませんが、現実にかかされている魂を持つ人間の生死のマグマもまた予測が尽かないのです。 日々の祈りの中で常に実践修行する以外には道はありません!

合掌礼拝

安養寺道場ではその実現のために、日々の祈りとはもとより年中行事を通じて、檀信徒各位と共に心のマグマの鎮静化に精進努力する以外に道はありません。

真言宗

弘法大師88ヶ所霊場

東方山安養寺

520-3015 栗東市安養寺88

Tel 077-552-0082

Fax 077-552-9151

URL touhouzan-anyouji.com

E-mail to-anyouji@nifty.com

平成二十六年年度

修復管理基金

ご志納者一覧



- 全納 (十四口) 武田 博 (十口) 上村 寛 (十口) 久木 伊勢雄 (十口) 浅野 重雄 (七口) 小島 頼信 大山 和伸 高尾 屹 浅野 重雄 岡本 光代 石井 保 窪田 きくえ 小林 友子 金井 万平 瀬戸 重雄 高野 正実

一口

- 四方 川村 多恵子 杉本 茂 吉廣 恵里子 熊谷 純一 吉津 政昌 藤井 勲 田口 光雄 山下 滋之 岩崎 皓二 酒井 清明 宇田 美佐子 有馬 哲 中川 智子 合田 俊英 長岡 保子 河田 雅光 鏡原 彰 佐藤 敬子 岩元 俊子 田中 祐二 一坪 徹夫 岩谷 鉄雄 中西 新次 今池 匡子 落田 亨 中村 佳代子 時岡 秀男 赤木 弘之 杉本 二朗 桑山 博史 安田 昭 後藤 千恵子 薦田 孝一 大村 勇 沖田 秀勝 紙崎 和子

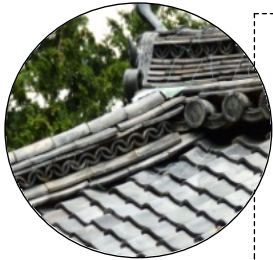
- 衣川 俊成 坂口 善行 栗田 俊一郎 山口 久子 平田 恒美 丹羽 千代子 八木 悦代 有藤 一己 宮本 博 大野 直 湯浅 三郎 村上 イト 大西 正信 窪田 啓子 宮崎 藤子 中島 伸芳 鈴木 政人 野玉 幸 北村 貴子 細谷 卓爾 寺本 幸司 松本 幸雄 西脇 敏弘 山本 勝彦 畑中 治 川人 比佐夫 浅川 憲資 岩長 幸夫 大杉 ふみ枝 越 哲男 森 藤人 松田 義勝 山上 高治 岩間 義明 利藤 方貞 石川 順蔵 原川 博善

坂元 貞徳
 松川 英三郎
 細川 忠夫
 兵井 康久
 守武 秀憲
 滝 敏彦
 塩飽 賢一郎
 金久 秀司
 岩井 宏之
 晶貴 正巳
 中平 進也
 桑山 由喜子
 田中 サダ子
 今林 正子
 米谷 訓
 福本 経子
 西川 富子
 高岡 茂光
 南 章
 大倉 省三
 藤原 宏
 長濱 吉章
 宇野 洋一
 正木 勇
 柏木 繁
 久保 きくえ
 勝部 利之
 宮野 節久
 中道 克司
 今泉 治武
 龜田 勝代
 田邊 タツ子
 金澤 利美
 父川 慧始子
 加賀田 美智子
 野口 敏廣
 岡田 敏廣
 栗坂 只七
 豊田 克彦
 豊澤 怜子
 金子 舜次郎
 多田 昭雄
 浅野 利通
 堀内 芳春

橋本 シゲ子
 尾上 美榮子
 永井 勝彦
 貝原 光敏
 山下 陽一
 山代 眞佐博
 高田 充康
 村岡 良雄
 坂田 加代子
 西尾 純一
 千田 二三夫
 田中 勝
 佐藤 彰高
 青木 優
 福田 悦子
 味間 君代
 廣瀬 吉彦
 林 秀樹
 北森 芳雄
 本郷 みちる
 有友 喜久子
 後藤 博之
 土井 貞子
 向 貞光
 山田 俊行
 山本 謙二
 中本 陽子
 川北 圭助
 森 隆生
 田上 一雄
 秦 孝一
 岡田 道夫
 久木 篤則
 丹下 攸一郎
 木寺 悦子
 山本 憲作
 山田 憲作
 小笠原 正敏
 中西 節子
 赤尾 喜久子
 平井 順廣
 父川 慧始子
 若林 宗一
 檜原 孝司

堂ノ尾 勇人
 小松 民子
 横山 英雄
 羽後 富美子
 福家 弘幸
 西村 弘幸
 中村 諭
 小谷 礼子
 松井 功
 木下 繁一
 永井 義隆
 米田 廣
 小濱 正行
 井家上 英樹
 田村 実
 松村 裕美子
 藤原 ひろみ
 原口 明
 田中 克和
 石田 敬一
 金村 路子
 福井 登志子
 岡本 ツヤノ
 三好 栄治

九月二十三日現在
 2000各家のご志納者です
 この基金志納金は今年から向
 こう7年間に渡り、毎年一口
 一万円以上のご志納をお願い
 するものです。
 ご志納をして頂ける各家を
 合わせてお願い申し上げます。



秋彼岸追悼廻向の文



敬つて真言教主大日如来、諸尊聖衆東
 方山安養寺本尊薬師如来、当観音堂本尊
 観世音菩薩に白して言さく。

当山は天平十二年、聖武天皇の発願に
 より良弁僧正の開創にして、東方瑠璃山
 の山号を号す近江湖南きつての古刹なり。
 然らば宗祖弘法大師が中興の祖と仰がれ、
 平安期承和元年に堂宇を再建せり。その
 後鎌倉中期の弘長二年には龜山天皇が
 伽藍を再興し、鎮護国家、玉体安穩の
 勅願寺となる。

惟れば、宗祖弘法大師の御提撕の鎮護
 国家・濟世利人の祖訓は思念を世界の平
 和と国家国民の安泰に馳せて、誠の幸福
 を実現せんとするものなり。

安養寺熊谷俊亮住職と平成二十三年一
 月二十一日に往生、遷化されし直子寺族
 夫人・寂光院覚苑慈祥大姉は、その宗祖
 の祖訓を心にされ、安養寺において、広
 く深く信仰の布行に精進されしものなり。
 さて今年の秋彼岸はさる二十日に彼岸
 入りして、二十三日に中日を迎える。澄
 み切った秋空のもと清澄な古刹・安養寺
 に多数の檀信徒の参詣を迎え、先祖の総
 供養、追悼廻向の秋季彼岸法要を執り行
 う。

いずれの先祖とも子孫にとってまぎれ
 もなく根本・根幹なり。既に安養浄土に
 渡られし各家、各自のご先祖は、昼、夜

の昼夜を分かつたず、常に子孫を守り、子
 孫のくるしみをわが苦しみとされ、少し
 も休んじることなし。子孫よりもむしろ
 先祖の方が多忙を極められていたものな
 り。
 その先祖の尊きお働き、守護のもとに子
 孫は現世において安住できるはまさに先
 祖のおかげによるものなり。
 この秋彼岸に当たり日頃のご恩に報い
 んと微志をさゝげて恩徳に報いる供養を
 奉る。

この供養の心とは、即ち効強く生きん
 とする先祖に対する子孫の篤き信仰のあ
 らわれなり。
 現世は怒涛逆巻く荒海にして混迷せる
 苦海なり。舵をきりそなうと方向を失
 い、荒波にただよう木葉のように絶望、
 失望、不安の待ち受ける海底へと沈みゆ
 く。

一時たりとも安んじることできず、こ
 うしたうち沈みゆく日々からの解放は信
 仰への心を開き、闇からの脱却なり。彼
 の岸、即ち彼岸におられる先祖・仏に救
 済を求め心の闇夜を取り除く働きを起す
 彼岸の供養なり。

経文を聴き仏のおわします世界へいざ
 なうご詠歌の調べに出会つと、自ずから
 生かし生かされる喜びがわき、強い支え
 を得るものなり。

ここにご本尊観世音菩薩前に願ぬか
 づき、檀信徒のご先祖に対して伏して
 丹心を表し廻向し奉る。
 願わくばこの五濁の此岸に生きる我等
 に、力強く生きる教導を与えたまえ、見
 守り玉わらんことを。

- 乃至法界 平等利益
- 南無大師遍照金剛
- 南無大師遍照金剛
- 南無大師遍照金剛
- 南無大師遍照金剛

平成二十六年九月二十三日

京都府向日市

亀光庵

住職 土口哲光

敬白